

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		守田 昌哉	所 属		熱帯生物圏研究センター	職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.25	大学院授業および臨海実習において内容の濃い、学生の満足度の高い講義および実習になるように心がける。 学生の求める研究テーマを丁寧な指導で自立的に行えるようにする。			0.25	大学院の実習及び講義では、概ね学生は満足出来たようであった。また、大学院の授業の延長で、希望者を対象に定期的に輪読会を開くことも考えている。また、学生が第一作者の論文も出版することが出来たため、目標は達成出来たと考えている。		
研究	0.55	専門分野に関する論文を二本出版する。大型予算獲得のために共同研究を積極的に行う。			0.55	専門分野に関する論文を2本出版することができた。また、現在3報の論文も査読中であり、研究の進行状況は良好である。大型予算取得のための共同研究も進んでいる。		
社会貢献	0.10	学会の委員を行う。依頼があれば、雑誌のレフリー、エディターも行う。			0.10	学会の委員および国際紙の査読を多数(6報)行なった。		
管理運営	0.10	委員会に出席し大学の運営に関与する。また、施設の維持管理に努め、故障機械の修理や維持などには特に気を配る。			0.10	大学及び施設の運営を機器管理等の面から行なった。		
					0.00			
計	1.00				1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		山城 秀之	所 属		熱帯生物圏研究センター	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.20	授業を通して、熱生研や瀬底研究施設の教育内容をPRする。公開臨海実習を始めとした臨海実験所としての実習プログラムなどに積極的に貢献する。サンゴに関する入門書を出版する。			0.25	修士課程「サンゴ礁生物相互作用論」および博士課程「サンゴの病気特論」の講義を行った。公開臨海実習(東大海洋学際教育プログラムとの共催「沖縄で学ぶサンゴ礁学:サンゴ礁生物、地形・地質、および環境保全に関する実習」)を実施した。サンゴに関する入門書「サンゴ-知られざる世界-、成山堂書店」を出版した。 学内の学生および施設を訪れた共同研究者の学生等と懇談し、進路等に関する話を聞いたり、アドバイスを行った。		
研究	0.50	科学研究費(基盤B, 研究分担者,2年目)の研究を計画的に実施し、成果を着実に仕上げるまた、その他の競争的内外資金の獲得にも努める。複数の論文を投稿(掲載)する。			0.40	科研費(基盤B, 分担)の研究を実施した。国際誌1報(筆頭1), 総説1報(単著)を発表し、書籍1冊(単著)を出版した。国際および国内学会で主としてサンゴの病気に関する口頭発表を行った。日本サンゴ礁学会第19回大会を主催した。		
社会貢献	0.10	熱帯生物圏研究センター職員として、および瀬底研究施設職員として様々な社会貢献活動に貢献する。地域貢献にも積極的に取り組む。			0.10	県立名護高校や県外の高校の研修を行った。また修学旅行生、国内外からの研究生等に対するレクチャーと施設案内もできる範囲内で実施した。熱生研の公開展示、日本サンゴ礁学会の公開シンポジウムの開催に取り組んだ。		
管理運営	0.20	瀬底研究施設の管理運営に施設長(3年目)としてより効率的に取り組む。平行して施設教職員との連携を深める。次年度に想定される予算減に対応すべく受益者負担のシステムを構築する。また、利用実績等の把握とPRIに勤める。			0.25	瀬底研究施設の管理運営に取り組んできた。施設職員のサポートもあり、順調にこなすことができ、また連携も深まった。受益者負担に関しては事務的なハードルが高く、次年度に引き継ぐこととした。		
計	1.00				1.00			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		酒井 一彦	所 属	熱帯生物圏研究センター	職 名	教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生支援	0.15	研究室に所属している、理工学研究科博士後期課程大学院生のインド人留学生と、同博士前期課程大学院生のインドネシア人留学生について、学位取得を目指した指導を行う。大学院理工学研究科の授業を担当し、研究室内外の大学院生の教育を行う。		0.15	研究室に所属している、理工学研究科博士後期課程大学院生のインド人留学生と、同博士前期課程大学院生のインドネシア人留学生について、学位取得を目指した指導を行い、ともに国内学会で研究成果を発表させた。大学院理工学研究科の授業を4科目担当し、研究室内外の大学院生の教育を行った。	
研究	0.40	サンゴ礁の生態及び保全生物学の研究を、野外調査・実験および水槽実験により展開し、年度内に5編の学術論文を査読ありの雑誌に出版または受理されることを目指し、研究を行う。		0.40	サンゴ礁の生態及び保全生物学の研究を、野外調査および水槽実験により展開し、年度内に6編の学術論文を査読ありの雑誌に出版した。	
社会 貢献	0.05	サンゴ礁の保全に関して、地域社会の要請に応じて講演会などを引き受ける。国や県のサンゴ礁保全関係の委員会の委員を、可能な範囲で引き受ける。		0.05	サンゴ礁の保全に関して、地域社会等の要請に応じて講演を3件行った。沖縄県のサンゴ礁保全関係の委員会の委員を、2件務めた。	
管理 運営	0.40	熱帯生物圏研究センター長として、センターの管理運営を統括し、センター内での研究教育環境の整備を行う。センターの共同利用・共同研究拠点としての第3期中間評価に向けた組織改革を行う。また、瀬底研究施設の運営にも積極的に参加する。		0.40	熱帯生物圏研究センター長として、第2期拠点期末評価対応として、センター長直属のフィールド生態学の新分野を設置し、共同利用・共同研究に大型外部予算獲得を目指すためのプロジェクト型共同研究を発足させた。瀬底研究施設の運営にも積極的に参加した。	
計	1.00			1.00		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		渡辺 信	所 属		熱帯生物圏研究センター	職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.30	西表研究施設における集中講義及び実習を実施する中で、以下の事項に関し、十分な学生の理解を促す。(1)サイエンスの中心より広がるユニバース(教育)の中における熱帯森林学の位置づけ。(2)分子生物学から生態学迄手段を選ばない研究アプローチ手法。対象実習:大学院×2・学部×4・高等学校×5・中学校×1			0.30	西表研究施設における集中講義及び実習を実施する中で、以下の事項に関し、十分な学生の理解を促すことができた。(1)サイエンスの中心より広がるユニバース(教育)の中における熱帯森林学の位置づけ。(2)分子生物学から生態学迄手段を選ばない研究アプローチ手法。対象実習:大学院×3・学部×3・高等学校×3・中学校×1 評点0.3		
研究	0.50	(1)科研費基盤(B)及び挑戦的萌芽研究の円滑な推進。(2)IF付き国際学術誌にファースト若しくはコレスポンディングオーサーとして研究論文を1本執筆する。(3)競争的外部資金の追加獲得。(4)今年度実施する共同利用研究並びに海外研究機関との共同研究の円滑な推進。			0.50	(1)科研費基盤(B)及び挑戦的萌芽研究の円滑に推進した。(2)IF付き国際学術誌に共著で1本投稿、掲載されたが、第一著者ではなかった。(3)科研Aを申請中。(4)既関連機関と円滑に事業を推進した。京都大学の地球研及び霊長類研究所と新たな研究展開を検討中。 評点0.35		
社会 貢献	0.10	竹富町への教育を中心とした協力。林野庁及び環境省関連の委託委員。各種Peer Reviewへの協力。様々な外部機関から依頼のある教育実習及び研究調査の対応。			0.10	竹富町への教育を中心とした協力。林野庁及び環境省関連の委託委員を務めた。各種Peer Reviewへの協力。様々な外部機関から依頼のある教育実習及び研究調査の対応を行った。 評点0.1		
管理 運営	0.10	施設運営の円滑な実施への協力。担当管理範囲の設備更新。			0.10	施設運営の円滑な実施への協力及び担当管理範囲の設備更新に務めた。 評点0.1		
計	1.00				1.00	総合評点1点中0.85点		

※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。

学外公表に同意しない。

学内外公表に同意しない。

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		徳田 岳	所 属		熱帯生物圏研究センター	職 名		教授
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定			業務 ウエイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.25	「生命科学入門」を通じて、共通教育に参加する。また、理学部および理工学研究科専門科目の講義・実習を通じて理学部学部生ならびに理工学研究科大学院生の教育にも携わるとともに、大学院生の教育研究指導を行う。			0.25	「生命科学入門」を通じて、共通教育に携わった。また、理学部専門科目の講義および実習を担当し、理学部学生の学部教育にも携わった。さらに大学院理工学研究科後期課程の講義を開講するとともに、大学院生の研究指導を通じて大学院教育に携わった。9月には当研究室に所属した特別プログラム留学生が学位を取得し、研究科長賞を受賞し帰国した。		
研究	0.30	学内外の共同研究者と共に最低1報の研究論文の採択を目指す。競争的研究資金など外部資金の獲得を目指し、研究環境の整備・充実を図る。			0.25	平成28年度は査読付き原著論文3報を発表し、日本語総説1報が受理済みとなっている。また、外部資金獲得に関しては継続課題を含め、科研費を3件(代表者2件と分担者1件)獲得した。また本年度は通常の国内学会に加え、アメリカ・フロリダ州で開催された国際昆虫学会議(ICE2016)においてシンポジウム招待講演を行った。		
社会貢献	0.15	ホームページや市民公開シンポジウムを通じて、地域への情報発信を行う。学会役員等としての活動を行い、地域社会への大学や研究機関における研究成果の還元に貢献する。			0.25	熱生研の公式HPの維持管理を行うと共に広報委員として、熱生研の活動を地域社会に情報発信した。また、市民公開展示会でポスター展示を行い、地域への情報発信を行った。さらに、日本動物学会沖縄大会の大会運営委員としてホームページ管理や外部問い合わせ窓口、会場係などを分担した。日本蚕糸学会および日本動物学会九州支部委員として活動した。		
管理運営	0.30	分生研レイアウト委員や熱生研広報委員として積極的に管理運営に努める。また、全学の化学物質管理専門部会のメンバーとして化学物質管理体制の維持に向けて活動する。さらに、熱生研の遺伝子組換え生物等使用実験安全主任者および全学安全委員会委員として、適切な組換え生物等の管理を実施する。			0.25	分生研のレイアウト・施設公開実行委員、副施設長、熱生研広報委員長として活動した。また、全学の化学物質管理専門部会の委員や遺伝子組換え生物等使用実験安全委員会の委員長として化学物質や組換え生物の適切な管理に努めた。		
計	1.00				1.00			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前	岩崎 公典		所 属	熱帯生物圏研究センター		職 名	准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.30	学部担当科目(生命科学入門)、大学院担当科目(生物資源利用とサイエンス)の講義の一コマを担当する。学生の指導に関しては、留学生の比率が大きくなっていることから、英語による教育、指導を心がける。特に博士課程の学生に対しては、論文投稿に係る指導を行う。		0.20	学部担当科目「生命科学入門」「生命科学(資源科2年次対象)」、大学院担当科目「生物資源利用とサイエンス」の講義一コマずつを担当した。博士課程の学生2名について、それぞれ副指導教員および指導補助教員として指導を行った(2名とも博士号取得)。		
研究	0.50	研究成果を学術誌に投稿する。新たに平成28年度「地域の農林水産物・食品の機能性発掘のための研究開発」委託事業の獲得を目指す(応募済み)。農学部との食と健康に関連した共同研究を立ち上げる。		0.50	研究成果をまとめて論文に投稿した。共著者として投稿した3報は受理されたが、第一著者として投稿した論文は査読中である。 応募していた平成28年度「地域の農林水産物・食品の機能性発掘のための研究開発」委託事業は採択され、カラシナの新たな機能性を見出した。この予算は農学部との共同研究で行った。		
社会 貢献	0.10	共同研究を通して、専門技術を要する動物実験による機能性評価や活性測定などを行い、企業製品の付加価値の向上を技術面からサポートする。施設公開や、市民公開講座を通して、研究成果を広く地域に公開する。		0.20	当該施設の施設公開と市民公開講座に参加し、広報活動を行った。県外の海産物加工食品製造企業と共同研究の芽出しを行い、製品の付加価値向上に関するアドバイスと予備試験に協力した。さらに共同研究または産学連携予算への応募について協議した。 また、第71回日本栄養食糧学会沖縄大会実行委員として会計を担当した。		
管理 運営	0.10	全学情報システム運用委員会技術責任者および技術担当者、共同研究施設等安全衛生委員会委員として活動する。施設の防火防災管理責任者として活動する。センター共通分析機器(主に質量分析装置、共焦点レーザー顕微鏡)の運用責任者として活動する。		0.10	全学情報システム運用委員会技術責任者および技術担当者、共同研究施設等安全衛生委員会委員として活動する。施設の防火防災管理責任者として活動した。センター共通分析機器(主に質量分析装置、共焦点レーザー顕微鏡)の運用責任者として活動した。		
	0.00						
計	1.00			1.00			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		屋 宏典	所 属		熱帯生物圏研究センター	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.20	学位取得に必要な論文作成を指導し、大学院教育に寄与する。博士学生の進路について、早い時期に学生と協議し円滑な進路決定ができるよう努める。			0.20	2名の学生に博士の学位を取得させることができた他、4名の博士学生の論文審査に参加し、大学院教育に貢献できた。指導学生の1名はポストドクではあるが就職が決定した。目標は達成できたと判断している。		
研究	0.30	大学院博士課程の学生と共に研究論文の採択を目指す。外部資金を獲得し、関連企業との共同研究を継続し、実社会に応用できる技術の研究開発に努める。			0.30	大学院博士課程の学生、外国人特別研究員等との連名で7編の論文を国際誌に発表した。応用研究を目指した外部資金3件を獲得した。概ね目標は達成したと判断している。		
社会貢献	0.20	県或いは関連外郭団が主催する委員会の委員を努める。また、資源利用に関する研究会(南方資源利用技術研究会)の運営に関わり、企業-大学連携の促進に貢献する。日本栄養・食糧学会の理事として学会運営に貢献する。			0.10	県或いは関連外郭団が主催する3つの委員会の委員を努めた。また、資源利用に関する研究会(南方資源利用技術研究会)の副会長として運営に関わった。栄養食賞学会全国大会の地元実行委員長として学会運営に関わった。目標は達成したと判断している。		
管理運営	0.30	産学官連携推進担当副学長として大学運営及び熱帯生物圏研究センター運営委員会委員としてセンター運営に貢献する。			0.40	産学官連携推進担当副学長として大学運営及び熱帯生物圏研究センター運営委員会委員としてセンター運営に関わった。目標は達成したと判断している。		
	0.00				0.00			
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 			1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		新里 尚也	所 属		熱帯生物圏研究センター	職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.20	共通科目「生命科学入門」、ならびに工学部で担当するの「環境衛生工学」について、講義内容の見直しを行い、図表等を多様したわかりやすい講義を実施する。講義のアンケートで理解度を評価し、全く理解できなかったとする学生が極力でない講義を目指す。担当する学生の進路決定に積極的にに関わり、本人の希望と適正に合った就職、進学先へ進めるように、卒業研究のスケジュール管理も含めて努力する。			0.20	今年度の生命科学入門では2つの章を担当し、講義内容についてはスライドを作り直すなどリフレッシュした。工学部で担当する環境衛生工学は、土木コースから21名の受講があり、うち期末試験欠席の2名以外は単位を取得した。卒業研究を担当した2名の学生は両名とも第一志望の就職することができた(長崎県庁、ゼネコン)。		
研究	0.60	自らが執筆する共著論文2報以上の投稿を目指す。また研究資金面では、積極的に競争的資金への応募や共同研究に参画し、1件以上の外部資金獲得を目指す。			0.60	今年度はトリミアマ原虫共生体の完全長ゲノム解析の結果を自らが筆頭著者の論文として報告した。その他、共著論文が2報採択された。また、外部資金としてAMED関連の共同研究1件、沖縄県の生物資源関連の受託研究1件を獲得した。		
社会貢献	0.10	研究事業やインキュベーション施設の運営・推進委員として沖縄県の科学技術振興に貢献する。その他、インターンシップの受け入れ等を通じた地域社会への貢献も積極的に行う。			0.10	昨年度より引き続き、沖縄県の主要な研究施設(沖縄県健康バイオセンターならびにライフサイエンス研究センター)の運営委員を務めた。その一方で、5名の高校生を受け入れ、実験を中心としたインターンシップを実施した。		
管理運営	0.10	地域貢献推進委員や危機管理対策委員として大学運営に貢献するとともに、全学的な研究支援として、先端シーケンサー運用の支援も行う。また、レイアウト委員やオープンキャンパス準備委員としての仕事を通して、分子生命科学研究施設の管理運営に積極的に参加する。			0.10	先端シーケンサーを活用した学内のゲノミクス研究推進を目的とした概算要求プロジェクト、「時空間ゲノミクス」のコアメンバーとしてプロジェクトの体制づくりに寄与した。発明審査委員会での審議にも積極的に参加し、大学の知財活用に貢献した。		
	0.00				0.00			
計	1.00				1.00			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		山平 寿智	所 属		熱帯生物圏研究センター	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.25	博士前期過程(進化生態学特論)と博士後期過程(熱帯進化生物学)の講義をそれぞれ開講する。また、週1回の研究室セミナーを通じて、研究室に所属する大学院生の教育・研究指導を行う。特に、主指導をしている学生1名に対しては、適宜個別面談による研究指導も行う。			0.25	博士前期過程の講義(進化生態学特論)と博士後期過程(熱帯進化生物学)を開講した。また、週1回の研究室セミナーを通じて、研究室に所属する大学院生の教育・研究指導を行った。主指導の博士前期課程の学生1名および博士後期課程の学生1名に対しては、適宜個別面談による研究指導も行った。		
研究	0.40	科研費による研究を実施し、学術誌等での論文3編を目標に成果発表を行う。これと並行して、国立遺伝学研究所、慶応大学、麻布大学、総研大、福岡女子大学、岐阜大学、および名古屋市東山動物園との共同研究を継続する。また、大阪医大との共同研究を新たに開始する。			0.40	科研費による研究を実施し、国際誌2編および学会発表3件の成果発表を行った。遺伝研、東山動物園、福岡女子大、および総研大、および岐阜大との共同研究を継続すると共に、慶応大、麻布大、大阪医大、基生研、および新潟大との共同研究を新たに開始した。日本生態学会九州地区委員、大会企画委員の任も遂行した。		
社会貢献	0.10	開邦高校からのインターンシップを受け入れると共に、先方との窓口的業務を行う。また、名古屋市立東山動物園に展示動物を提供し、飼育業務に関するアドバイスを行う。			0.10	開邦高校からのインターンシップを受け入れた。インターンシップでは各校との窓口的業務も行った。また、名古屋市立東山動物園に展示動物を提供し、飼育業務に関するアドバイスも行った。		
管理運営	0.25	西原研究施設長ならびに副センター長として部局の管理運営に携わる。また、熱生研全学委員として熱生研運営委員、ならびにハラスメント防止対策委員の任を遂行する。加えて、熱生研の委員として、公開シンポジウム委員の任も遂行する。			0.25	西原研究施設長ならびに副センター長として施設長懇談会に参加し、部局の管理運営に携わった。また、熱生研全学委員として、熱生研運営委員、ならびにハラスメント防止対策委員の任を遂行した。加えて、熱生研の委員として、公開シンポジウム委員の任も遂行した。		
計	1.00				1.00			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		内貴 章世	所 属	熱帯生物圏研究センター	職 名	准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生 支援	0.20	<ul style="list-style-type: none"> 西表研究施設において担当する予定の集中講義・実習において、生物多様性の理解を効果的に促す指導を行う。 理学部・理工学研究科の学生に対する教育および大学院進学を促すためのリクルート活動に積極的に関わる。 		0.20	<ul style="list-style-type: none"> 学内担当の2講義に関しては独自の資料を作成・配布し、昨年度同様効果的な講義ができたと考えている。 学外の野外実習を2大学各1講義担当した。相手大学教員と協力して効果的な講義ができたと考えている。 理学部・理工学研究科の学生に対して大学本部、西表研究施設において説明会を行った。 	
研究	0.55	<ul style="list-style-type: none"> 西表島の植物相研究プロジェクトを推進する。 科学研究費補助金による研究を推進する。 国内外の研究者との共同研究を行う。 学会、学術誌において研究成果を発表する。 科研費等の外部資金獲得に取り組む。記載ください 		0.60	<ul style="list-style-type: none"> 西表島の植物相研究に関して民間団体と協力して5年計画で推進することになった。 2つの研究テーマ(継続4件、新規2件)に関して、国内外の研究者との共同研究を進めることができた。 2件の研究成果を学会で報告し、8編の論文(共著)が査読付き学術誌に掲載(または受理)された。 新たな外部資金を獲得(民間助成)できた。 	
社会 貢献	0.15	自治体、官公庁、一般財団等と連携した西表島の植物相調査、外来種対策、希少種保護の取り組みを進める。		0.10	地方自治体と絶滅危惧植物保護についての取り組みを進めることができた。	
管理 運営	0.10	熱帯生物圏研究センター内委員の役割を果たす。		0.10	熱帯生物圏研究センター内委員の役割を果たすことができた。	
	0.00			0.00		
計	1.00			1.00		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)						
名 前		松浦 優	所 属	熱帯生物圏研究センター	職 名	助教
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定		業務 ウエイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生支援	0.10	<ul style="list-style-type: none"> ・教養講義等を一部担当し、共生進化学、生物多様性の理解を深める教育を行う。 ・受け入れ予定の学生はないが、今年度アメリカ合衆国のモンタナ大学の大学院生が私のもとへ来るため、学術振興会の外国人研究員招へい制度に応募した。もし採用されれば、年度の後半に共同研究を開始することになるため、研究の指導体制を完全に整えて対応する。 		0.05	<ul style="list-style-type: none"> ・教養講義等を一部担当し、生命科学の共通教育、専門分野の最先端の知識を提供することで貢献した。 ・今年度応募したモンタナ大学の大学院生は学術振興会には採択されなかった。しかし、ウェブ会議等で共同研究を開始しており、他にもメキシコ国立自治大学、ドイツのバイロイト大、北海道大学の大学院生にたいして研究を指導した。 ・所属分野の大学院生に対する博士論文・発表の指導を補助した。 	
研究	0.75	<ul style="list-style-type: none"> ・前年度のまでの成果をまとめたうえで、追加実験を行って、年度内に国際学術誌に3報の論文を発表する。 ・国際昆虫学会(アメリカ・オランダ)での依頼講演、国際動物学会(沖縄)での大会運営を成功させるため尽力する。 ・科研費(若手B)の最終年度となるため、追加実験や解析、成果の発表に努める。 ・産業技術総合研究所や琉球大学農学部と共同研究を開始し、亜熱帯に生息する生物種を活かした研究を推進する。 ・公益財団法人発酵研究所の一般研究助成、科学研究費補助金の獲得に向けて応募する。 ・学術雑誌の査読依頼は全て引き受けて対応する。 		0.75	<ul style="list-style-type: none"> ・国際学術誌に査読付論文を4報(共著)発表した。 ・国際動物学会(沖縄)での大会運営に携わり、学会の成功に貢献した。 ・科研費(若手B)に関連する自身の研究テーマの推進に向けて、研究環境の構築に努めた。 ・モンタナ大学との共同研究を推進し、論文発表に必要なデータ解析を完了した。 ・バイロイト大学との共同研究を推進し、議論しながら投稿論文を作成した。 ・産業技術総合研究所、琉球大学農学部との共同研究を開始し、沖縄県に生息する昆虫類のフィールド調査やサンプル解析を推進した。 ・成茂動物科学研究助成金、公益財団法人発酵研究所の研究助成金に応募し、それぞれ採択された。学内のプロジェクト研究費および科学研究費補助金(挑戦的研究・萌芽)に代表者として応募した。一方で、学振の外国人研究員採択に向けて、アメリカ、メキシコ、ドイツからの3件の応募書類作成を指導した。 	
社会貢献	0.05	<ul style="list-style-type: none"> ・一般公開セミナーやウェブを通じて、研究内容の公開に努める。研究内容、成果に関する一般向けのサイトを開設し、誰でも情報にアクセスできる体制を整える。 		0.05	<ul style="list-style-type: none"> ・所属センターや学会の一般公開イベントに積極的にに関わり、学外への情報公開に務めた。自身の研究内容に関するウェブサイトは未公開であるが、デザインおよび開設の準備を進めている。 ・学術雑誌の査読依頼は全て引き受けて対応した。 	
管理運営	0.10	<ul style="list-style-type: none"> ・学内安全衛生委員としてセンター内の安全の向上に努める。特に震災時を想定して、研究機器や備品、本棚等の設置物の落下や倒壊にともなう危険防止策を実施する。 		0.15	<ul style="list-style-type: none"> ・安全衛生委員としてセンター内の安全と衛生の向上に努めた。災害停電時の非常用電灯や急病人・怪我人の救護設備を新たに導入した。一方で、施設の利用登録申請の改革についてワーキンググループを開催して議論し、登録費の値下げ、申請制度を簡略化し、全学における利便性の向上を実現した。研究教育環境整備費に申請して採択され、設置場所に関して他部局との協議や運営方法の策定に尽力した。 	
	0.00			0.00		
計	1.00			1.00		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)								
名 前		新川 武	所 属		熱帯生物圏研究センター	職 名		教授
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定			業務 ウエイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.25	<p>大学院教育: 医学研究科博士課程(医学専攻) 亜熱帯医学プロジェクトの亜熱帯医学概論を担当する。同じく医学研究科博士課程(医学専攻) 2~3年次を対象とした健康長寿医学プロジェクト/亜熱帯医学プロジェクト/社会医学プロジェクト/再生・再建医学プロジェクト/臨床研究教育管理プロジェクトの感染免疫制御学特論を担当する。さらに、医学研究科博士課程(医科学専攻) 1~4年次を対象とした感染制御医科学専攻(感染制御医科学特別コース)の感染免疫制御学特論・感染免疫制御学演習・感染免疫制御学実習を担当する。医学研究科博士課程の大学院生を対象とした特別演習(研究室ローテーション)に積極的に参加する。医学研究科博士課程の大学院生の副指導教員を担当する。</p> <p>学部教育: 医学部M2を対象とした免疫学講義の一部(ワクチンと感染症対策)を担当する。また、共通教育科目「生命科学入門」を担当する。その他、原著論文・総説購読会等(Vaccinology Journal Club/ワクチン勉強会)を実施する。医学部M4を対象とした基礎研究実習生を2名受け入れ、研究現場を体験させる。また、外部資金で雇用している技術補佐員、協力研究員、民間等共同研究員に対して適切な指導・支援を心がける。原著論文、HPその他英語による情報発信ができるよう英語教育に力を注ぐ。</p>			0.25	<p>医学研究科大学院教育では、博士課程(医学専攻)を対象とした各種プロジェクト(亜熱帯医学プロジェクト/健康長寿医学プロジェクト/亜熱帯医学プロジェクト/社会医学プロジェクト/再生・再建医学プロジェクト/臨床研究教育管理プロジェクト)の中で、亜熱帯医学概論ならびに感染免疫制御学特論を担当した。さらに、感染制御医科学専攻(感染制御医科学特別コース)の感染免疫制御学特論・感染免疫制御学演習・感染免疫制御学実習を担当した。また、特別演習(研究室ローテーション)も担当した。農学修士の副指導教員を務めた。</p> <p>学部教育では、共通教育科目「生命科学入門」の一部や農学部講義の一部を担当した。また、原著論文・総説購読会等(Vaccinology Journal Club/ワクチン勉強会)を実施した。医学部教育では、M2を対象とした免疫学講義の一部(ワクチンと感染症対策)を担当した。さらに、M4の基礎研究実習生を2名受け入れ、3週間研究現場を体験させた。また、医科学研究カリキュラムでは、M3を1名受け入れ、3ヶ月間基礎研究に従事させることで、科学的考察力を培うことや実験技能向上を目指した教育を施した。</p> <p>外部資金で雇用している技術補佐員、協力研究員、民間等共同研究員等に対し技術指導した。</p> <p>他大学等の学生教育では、医療法人おもとと会沖繩リハビリテーション福祉学院のOT・PTの学生に対し内科学の講義を担当した。また、長崎大学熱帯医学研究所の留学生向け講義を担当した。</p>		
研究	0.45	<p>ワクチン開発のための技術基盤構築を目指す。特に腸管出血性大腸菌(O157等)に対するワクチン開発や動物のウイルス感染症に対するワクチン開発研究を推進すると同時に天然生物資源ライブラリーから免疫賦活機能性物質(アジュバント)を探索する。また、伴動物の寄生原虫に対する新しい診断薬開発を進める。そして、これらの研究開発の成果を原著論文、学会発表、知的財産権獲得(可能な限りPCT出願)等へ繋げる。さらに、科学研究補助金(基盤研究(C))(平成27年度~平成29年度)、平成28年度研究プロジェクト推進経費(戦略的研究推進経費)、沖縄科学技術イノベーションシステム構築事業(平成27年度~平成29年度)、第一三共株式会社TaNeDS(平成27、28年度)等、多くの競争的外部資金を獲得し、さらにAMED等厚生労働省や農林水産省等の大型研究資金獲得へ向け努力する。</p>			0.45	<p>感染症ワクチン研究では、特に腸管出血性大腸菌(O157等のSTEC)や毒素原性大腸菌(ETEC)に対する抗毒素ワクチンの開発を進めた。また、動物のウイルス感染症に対するウイルス様粒子(VLP)を用いたワクチン研究を推進した。さらに、天然生物資源から免疫賦活物質(アジュバント)を探索し、いくつかの有用な候補を見出すに至った。診断薬開発では、犬の寄生原虫に対するイムノクロマトグラフィ法の技術的基盤構築作業を進めてきた。以上は全てイノベーション創出に少なからず貢献する研究成果を生み出した。</p> <p>研究資金については、科学研究補助金(基盤研究(C))(平成27年度~平成29年度)、平成28年度研究プロジェクト推進経費(戦略的研究推進経費)、沖縄科学技術イノベーションシステム構築事業(平成27年度~平成29年度)、第一三共株式会社TaNeDS(平成27、28年度)等、多くの競争的外部資金を獲得した。しかし、農林水産省等の大型研究資金獲得は実現できなかった。</p>		
社会 貢献	0.20	<p>研究内容を学会、セミナー、市民公開講座、各種HP、熱帯生物圏研究センター年報、分子生命科学研究所施設公開等を利用して幅広く宣伝することで、地域社会へ科学技術の重要性を伝える活動に積極的に参加する。また、開始から11年目を迎えた株式会社ジェクタス・イノベーターズとのレンタルラボ契約を終了し、その社員を感染免疫制御学分野の推進研究員として受け入れることで、引き続き産学連携活動に従事する。特にジェクタス社に対しては、その科学技術顧問として学術および技術面から支援することで動物用医薬品(ワクチン)の開発をより一層推進する。また、地域連携推進機構知的財産系担当教授(旧知的財産部門長)として、一般財団法人沖縄発明協会等の知的財産管理啓発活動や人材教育活動に参加する。さらに、文部科学省科学技術政策研究所科学技術動向研究センターの専門調査員として、科学技術の動向に対する意見書等を提出することで、我が国の科学技術の進展に寄与する努力をする。日本寄生虫学会の評議委員として働く。必要(依頼)に応じて文部科学省以外の省庁の研究課題審査員となる。</p>			0.20	<p>研究成果を各種発表の機会を利用して幅広く公表した(学会、セミナー、熱研市民公開展示会、HP、年報、分子生命科学研究所施設公開、関西バイオビジネスマッチング2017等)。</p> <p>地域連携推進機構の知的財産系担当教授として、本学ならびに沖縄県の知財活動にも参加した。文部科学省科学技術政策研究所科学技術動向研究センターの専門調査員として活動した。日本寄生虫学会の評議委員として活動した。各省庁の研究審査員を務めた。日経アジア感染症会議に参画し、沖縄感染症研究拠点形成へ向けた取り組みに参加した。</p> <p>設立から6年目を迎える株式会社ジェクタス・イノベーターズの代表取締役役に就任し、産学連携活動を一層推進する体制を整えることができた。これによって、沖縄初の動物用ワクチンの開発を達成した(上市は2019年予定)。</p>		
管理 運営	0.10	<p>熱帯生物圏研究センターの管理運営が滞りなく進むよう分野長(感染免疫制御学分野)としてその役割を担う。また、熱帯生物圏研究センター教授会構成員や熱帯生物圏研究センター運営委員会委員の役割を担う。さらに、人事案件がある場合は、教員人事委員会委員並びに調書作成委員会等をの役割を担う。また、地域連携推進機構知的財産系担当教授(旧知的財産部門長)、発明審査委員会委員長、医学研究科教授会構成員、医学研究科学務委員会委員の役割を担う。</p>			0.10	<p>感染免疫制御学分野長、熱帯生物圏研究センター教授会構成員、熱研運営委員会委員、地域連携推進機構運営委員会委員、地域連携推進機構知的財産系担当教授、発明審査委員会委員長、医学研究科教授会構成員、医学研究科学務委員会委員等、複数の管理運営業務に携わった。</p>		
	0.00				0.00			
計	1.00				1.00			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		松崎 吾朗	所 属	熱帯生物圏研究センター	職 名	教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生 支援	0.10	大学院医学研究科感染制御医科学専攻生体防御学講座を担当し、大学院における講義を実施する。医学部の免疫学および細菌学の講義および基礎研究を分担することにより、感染症制御に関する教育を行う。学外においては、非常勤講師として講義を行う。共通教育では、「生命科学入門」の企画しまた講義分担することにより、教養の生物学教育に参加する。		0.10	大学院医学研究科感染制御医科学専攻生体防御学講座を担当し、大学院における講義を実施した。医学部の免疫学および細菌学の講義および基礎研究を分担することにより、感染症制御に関する教育を行った。学外においては、島根大学医学部非常勤講師として医学部の講義を行い、佐賀大学大学院および鹿児島大学大学院の非常勤講師として大学院生の講義を行った。共通教育では、「生命科学入門」の企画しまた講義分担することにより、教養の生物学教育に参加した。	
研究	0.50	自らの研究テーマである感染症に関する研究を推進するとともに、学内外の研究者と共同研究を行い、その成果を英文原著論文として投稿し一流専門誌への採択を目指す。また、学会における研究成果の発表と討論により、研究者間の情報交換を行い、それによる研究の改善を目指す。研究経費については、科学研究費補助金一般B以上の獲得目指し、さらに企業との共同研究経費の獲得を目指す。		0.50	自らの研究テーマである感染症に関する研究を推進するとともに、学内外の研究者と共同研究を行い、熱生研の共同研究経費で推進した研究が免疫学の一流誌Immunity(IF 24.082)に共著者として発表された。その他にも2編の英文原著論文が共著者として発表された。また、日本比較免疫学会において第1著者として研究成果の発表を行うとともに、日本免疫学会および日本細菌学会においては座長として、日本生体防御学会では会長として、積極的に討論を行い、また研究者間の情報交換を行い、それにより研究の改善を行ってきた。研究経費については、企業との共同研究経費を2件獲得するとともに、琉球大学戦略的研究経費に分担者として採択された。	
社会 貢献	0.10	日本生体防御学会会長として、学会の運営の中心となるとともに、他学会の評議員として学会運営に参加する。また、学外の遺伝子組換え生物等使用安全委員会および病原体取扱安全委員会に参加し、適正な遺伝子組換え生物および病原体の使用の実施に貢献する。		0.10	日本生体防御学会会長として、学会の運営の中心として活動した。また、日本免疫学会、日本細菌学会の評議員として学会運営に参加した。沖縄科学技術大学院大学では、バイオセーフティー委員会委員長として、適正な遺伝子組換え生物および病原体の使用の実施に貢献した。	
管理 運営	0.30	琉球大学遺伝子組換え生物等使用安全委員会の委員として、琉球大学における遺伝子組換え生物等使用の適正な運用と管理のに貢献する。また、熱帯生物圏研究センター分子生命科学施設長として、センターの管理運営に積極的に参加する。		0.30	琉球大学遺伝子組換え生物等使用安全委員会の委員として、琉球大学における遺伝子組換え生物等使用の適正な運用と管理のに貢献した。また、熱帯生物圏研究センター分子生命科学施設長として、センターの管理運営に積極的に参加した。	
	0.00			0.00		
計	1.00			1.00		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		玉城 志博	所 属		熱帯生物圏研究センター	職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.15	医学部医学科4年次対象の基礎研究で配属される実習生に対して、現場担当者としてワクチン研究現場を経験させる。 農学部亜熱帯生物資源科学から共同研究で感染免疫制御学分野にきている修士学生の実験等の支援・指導する。			0.15	医学部医学科4年次対象の基礎研究で配属される実習生を、約3か月間ワクチン研究に関する実験等を指導し、研究現場を経験させた。 農学部亜熱帯生物資源科学から共同研究で感染免疫制御学分野にきている修士学生の実験等の支援・指導し、無事に修士論文発表を済ませた。		
研究	0.70	ワクチンおよびアジュバント開発を推進する。 ワクチン開発において、志賀毒素に対するトキソイドワクチンや日本脳炎ウイルスに対する大腸菌発現組換えタンパク質性ワクチンの開発を推進させる。 アジュバント開発においては、熱帯地域に生息する動植物および微生物からアジュバント候補化合物の探索をする。また、アジュバント候補化合物を見出した際には、その免疫学的作用機序を解明する。 また、組換えタンパク質作成技術を活用し、イムノクロマトグラフィー法を利用した診断薬の開発を進める。 これら研究成果を原著論文およびワクチン学会等で発表する。 科学研究補助金(若手(B))を獲得できるように努める。			0.70	ワクチンおよびアジュバント開発を推進した。 ワクチン開発において、志賀毒素に対するトキソイドワクチンや日本脳炎ウイルスに対する大腸菌発現組換えタンパク質性ワクチンの生化学的および生体防御機能を解析した。 アジュバント開発においては、天然物からアジュバント候補化合物を数種類見出し、その免疫学的作用機序を一部解明した。 イムノクロマトグラフィー法を利用した診断薬の開発では、診断薬作製に必須な基礎的な条件を見出した。 志賀毒素に対するトキソイドワクチンに関する研究成果をワクチン学会で発表した。また、その研究成果を来年度原著論文で発表する準備している。 科学研究補助金(若手(B))に応募した。		
社会 貢献	0.05	市民公開講座・展示等で研究内容を宣伝し、地域社会へ科学技術の重要性をアピールする。株式会社ジェクタス・イノベーターズの科学技術アドバイザーとして産学連携活動に従事する。開邦高校インターンシップの高校生に研究現場の体験をさせ、科学により興味を持ってもらう。			0.10	市民公開講座・展示等では研究内容を宣伝し、地域社会へ科学技術の重要性をアピールした。今年度10月から株式会社ジェクタス・イノベーターズの取締役となり、産学連携活動に従事した。開邦高校インターンシップの高校生に研究現場の見学や基本的な実験をさせ、科学に興味を持ってもらった。		
管理 運営	0.10	市民公開シンポジウムおよび講座・展示の委員を担当しており、熱帯生物圏研究センターを地域社会にアピールする。また分子生命研究施設にあるレイアウト委員も担当しており、施設の運営および管理等を円滑に進める。			0.05	市民公開シンポジウムおよび講座・展示の委員では、熱帯生物圏研究センターを地域社会にアピールすることに努めた。また分子生命研究施設のレイアウト委員では、施設の運営および管理等を円滑に進められるように努めた。		
計	1.00				1.00			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		高江洲 義一	所 属	熱帯生物圏研究センター	職 名	准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生支援	0.20	<ul style="list-style-type: none"> ・医学研究科の協力講座として、医学部講義・実習の一部を担当する。 ・FDに積極的に参加する。 		0.40	<ul style="list-style-type: none"> ・M2『細菌学』の講義(1コマ)、実習(10, 11月)を担当した。 ・大学院医学研究科講義『亜熱帯医学概論』(1コマ、10月)を担当した。 ・M3基礎配属実習2名(新潟大学医学部より受け入れ、6週間)を指導した。 ・M3基礎配属実習1名(本学医学部より受け入れ、10週間)を指導した。 	
研究	0.60	<ul style="list-style-type: none"> ・研究代表者となっている科研費(基盤C、H27-29)の研究を継続する。 ・学内外の研究者と共同研究を行う。 ・競争的外部資金の獲得に取り組む。 ・研究成果を学会または論文で発表する。 		0.40	<ul style="list-style-type: none"> ・第27回日本生体防御学会学術総会(福岡市)にて、研究成果を口頭発表した。 ・ノースカロライナ州立大学のグループとの共同研究成果を論文発表した。(Journal of Cell Science誌、Cell Death & Disease誌、各1報) ・ノバルティス研究奨励金に応募した。 	
社会貢献	0.10	<ul style="list-style-type: none"> ・学会、研究会活動に参加する。 ・機会があれば原著論文の査読を引き受ける。 ・県内の小中校生向け教育プログラム等の開催に協力する。 		0.15	<ul style="list-style-type: none"> ・原著論文の査読を行った。(Experimental Biology and Medicine誌、1件) ・第5回ITAMワークショップ(福岡市)に座長として参加した。 ・沖縄県委託事業『H28子供科学人材育成事業 サイエンス・リーダー育成講座』において、『遺伝子科学コース』を企画・実施した(6日間)。 	
管理運営	0.10	<ul style="list-style-type: none"> ・入試関連業務に協力する。 ・各種の学内委員会活動に参画する。 ・分子生命科学研究施設の管理運営に積極的に参加する。 		0.05	<ul style="list-style-type: none"> ・教員選考調書作成委員会委員(1件)。 ・分生研の施設公開(6月)にて、『グラム染色体験コーナー』を企画・実施した。 	
計	1.00			1.00		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		高相 徳志郎	所 属		熱帯生物圏研究センター	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果			
教育・ 学生 支援	0.20	<ul style="list-style-type: none"> ・大学院教育に参加するが、体験学習を重要視する。 ・共通教育科目(1講義)を担当する。 ・高校から希望があれば出前授業を担当する。 		0.20	<ul style="list-style-type: none"> ・大学院授業1科目を担当した。 ・共通教育科目(1講義)を担当した。 ・出前授業の希望がなかった。 			
研究	0.30	<ul style="list-style-type: none"> ・景観改善、ヤマネコ事故防止に用いる地被植物の繁殖法、栽培法の確立研究を行う。 ・ウミクサ類がウミガメの食害にあっており、この実態調査を行う。 ・マングローブ植物の授粉機構の論文を作成する。 		0.30	<ul style="list-style-type: none"> ・景観改善、ヤマネコ事故防止に用いる地被植物の繁殖法、栽培法の確立研究を行った。 ・ウミクサ類がウミガメの食害にあっており、この実態調査を行った。 ・マングローブ植物の授粉機構の論文の準備をしたが投稿でなかった。 			
社会 貢献	0.30	<ul style="list-style-type: none"> ・景観改善に地被植物が有効であること啓蒙し、実践する。 ・マングローブ植物の本の和訳を予定している。 ・植物の形態について地域社会を対象とした授業をする。 		0.30	<ul style="list-style-type: none"> ・景観改善に地被植物が有効であること啓蒙し、実践をした。 ・マングローブ植物の本の和訳のため出版社と交渉中。 ・植物の形態について地域社会を対象とした授業はしなかった。 			
管理 運営	0.05	<ul style="list-style-type: none"> ・熱生研の組織運営にあずかる。 		0.05	<ul style="list-style-type: none"> ・熱生研の組織運営にあずかった。 			
	0.15	<ul style="list-style-type: none"> ・キャンパス内の景観改善を植栽によって進める。 		0.15	<ul style="list-style-type: none"> ・キャンパス内の景観改善を植栽によって進めた。 			
計	1.00			1.00				
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。				

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前	梶田 忠		所 属	熱帯生物圏研究センター	
職 名			職 名	教授	
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定	業務 ウエイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生 支援	0.30	<ul style="list-style-type: none"> ・主指導教員として博士課程学生1名の教育と学生支援を行う。 ・前職で指導にあっていた大学院生(博士課程3名、修士課程2名)の指導を継続し、現職の職務内で教育および研究支援を実施する。 ・IT技術(e-ラーニング等)を利用した教育指導を実施する。 ・西表研究施設への進学者増加を目指して、進学説明会など、学生向けの情報発信を行う。 	0.30	<ul style="list-style-type: none"> ・主指導教員として博士課程学生1名の教育・研究指導・学生支援を行った。 ・前職(千葉大学)で主指導教員として担当していた大学院生5名の指導を客員教員として継続し、現職の職務内で教育・研究指導・および研究支援を実施した。 ・IT技術(e-ラーニング等)を利用した教育を、授業および学生指導で実施・活用した。昨年度立ち上げた教育・研究用のmoodleサイト(iriken.com)は、年度内にサービスの始まった学内提供のさくらレンタルサーバに移行した。次年度からは新サイトで運用して教育活動に用いる。 ・学内共通科目の授業を担当した。授業実施に際し、上記e-ラーニングシステムを用いた。 ・西表研究施設への進学者増加を目指して、進学・ポスドク説明会を2回開催し、学生向けの情報発信を行った。学内外の学生やポスドクの参加があり、次年度以降も継続することになった。 	
研究	0.35	<ul style="list-style-type: none"> ・複数の科学研究費補助金による共同研究体制を維持し、西表研究施設の利点を生かした研究体制を構築する。 ・熱帯生物学研究センターを拠点とするマングローブの国際研究ネットワーク形成と国際研究プロジェクトの実施に向けて、競争的資金獲得のための努力を継続する。 ・YList(植物和名一学名インデックスデータベース)の外部公開を継続し、情報取得のためのサービスを向上させる。 ・研究成果を論文や学会発表を通して公開する。 	0.30	<ul style="list-style-type: none"> ・複数の科学研究費補助金や熱生研プロジェクト型研究助成による、国内外の研究者との共同研究体制を維持し、西表研究施設の利点を生かした研究体制を構築した。 ・西表研究施設のウェブサイト(http://nesseiken.info)を維持し、研究情報を継続発信した。 ・熱帯生物学研究センターを拠点とするマングローブの国際研究ネットワーク形成と国際研究プロジェクトの実施に向けて、競争的資金獲得のための努力を継続した。 ・年度内に取得した熱生研プロジェクト型研究助成により、マングローブ植物の景観ゲノミクス解析を推進した。また、あわせて鹿児島連大の国際研究集会開催助成等の援助を受け、マングローブ植物の保全遺伝学的研究のための国際ワークショップを西表研究施設で開催し、景観ゲノミクス研究のための研究ネットワークを構築した。 ・琉球大学外国人招へい研究者1名を受け入れ、マングローブ植物に関する共同研究を実施した。 ・施設内のガラス温室を活用して、マメ科植物の大規模交配実験を実施した。 ・スペイン・ララグナ大学の研究者と、マメ科植物-根粒菌共生系に関する共同研究を実施した。 ・YList(植物和名一学名インデックスデータベース)の外部公開を継続し、情報取得のためのサービスを一部を向上させた。 ・研究成果の発表実績:論文出版3報、学会発表10件。 	
社会 貢献	0.10	<ul style="list-style-type: none"> ・日本植物分類学会等の委員会活動に参画する。 ・マメ科植物の多様性研究の国際会議(H30年度開催)に向けて準備を整える。 ・マングローブの遺伝的多様性保全のための国際研究ネットワークの代表者、H26年度末実施の日本-ブラジル若手研究者ネットワークのコーディネーター等として、研究ネットワークの維持に努める。 	0.10	<ul style="list-style-type: none"> ・日本植物分類学会等の委員会活動に評議員として参画し、H28年末に任期を終えた。 ・国際マメ科植物会議のメインオーガナイザーとしての活動を行った。H30年8月-9月に仙台で開催予定。熱生研主催で実施できるよう、準備・調整を継続中。 ・JSPS委員として、委員会活動を行った。 ・IUCNのMangrove Specialist Groupの活動を行った。また、マングローブの遺伝的多様性の国際研究ネットワークの代表者として、研究ネットワークの維持活動を行った。 ・西表島を含む地域の自然遺産登録推薦に関して、関係する委員会に出席した機会に意見を述べた。また、自然遺産登録に関連する情報を収集し、一般向けに情報を提供した。 	
管理 運営	0.25	<ul style="list-style-type: none"> ・熱帯生物学研究センター西表研究施設の施設長として、センター長補佐及び研究施設の業務と整理を行う。 ・西表研究施設内の定例会議を統括し、施設運営に関する重要事項を協議・決定する。 ・西表研究施設内で電子媒体を用いた情報共有システムを構築する。 	0.30	<ul style="list-style-type: none"> ・西表研究施設の施設長として、センター長補佐及び研究施設の業務と整理を行った。また、定例施設内会議(毎週金曜)において、施設運営に関する重要事項を協議・決定した。 ・西表研究施設内で電子媒体(Wiki、Google Drive、Drop Box)を用いた情報共有システムを構築した。これらを用いて、議事録などの情報を構成員と共有した。 ・西表研究施設の年度予算(運営費)の推移と予算の使用状況を把握し、次年度予算案を作成した。 ・施設および設備の利用状況、および、老朽化の状態を調査・把握し、大学本部への報告と修繕依頼を行った。 ・全国共同利用・共同研究拠点としての施設の利用状況を調査分析し、今後の運営方針と将来計画を検討、提案した。 ・ポスドク採用人事における連絡担当者として、公募や連絡・選考・面接の調整を行った。 ・西表研究施設の中長期的な運営方針や活動指針についての検討を開始した。 ・西表勤務教員数減による教員の負担増に対応して、業務の整理と担当者の割り振りを行った。 	
計	1.00		1.00		

※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。

学外公表に同意しない。

学内外公表に同意しない。